

地域・在宅看護学概論

単位数（時間数）：2 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・大沼由香

科目担当者（職位・氏名）：教授・鈴木るり子、准教授・越納美和

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢

看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：55

■ 授業概要

地域で生活するあらゆる健康段階の人々と、その家族を看護の対象として捉え、地域・在宅看護の歴史や地域・在宅看護が必要とされる社会的背景を、時事的テーマを踏まえ教授する。また、地域・在宅看護に関連する概念と活動の場・活動方法について基本的な知識を修得できるよう教授する。

■ 到達目標

1. 地域・在宅看護の概念や理論を理解し、説明できる。
2. 地域・在宅看護活動の場の特徴を基盤となる法制度も含めて理解し、説明できる。
3. 地域・在宅看護活動の対象の特徴を理解し、説明できる。
4. 地域・在宅看護における倫理的課題および倫理的判断の考え方が理解できる。
5. 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割が理解できる。

■ 教育内容

地域・在宅看護論、個人・家族・集団・組織の支援

■ キーワード

地域看護、公衆衛生看護、地域・在宅看護活動に必要な理論・関係法規、在宅療養者の権利、地域包括ケアシステム、家族介護者

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	地域・在宅看護学の目的、対象	授業オリエンテーション、 地域・在宅看護活動の目的、対象、看護活動の場 *課題レポート提示	大沼
2	地域看護の基本的な概念と活動の特徴	地域看護の基本的な概念と特徴、社会環境と健康と看護活動との関連	鈴木
3	地域看護活動を展開するために必要な理論	1. 地域アセスメント：必要性、目的、方法 ① アセスメントモデル ・プリシード・プロシードモデル ・コミュニティ・アズ・パートナモデル ② 健康課題の抽出・実践：PDCA サイクル P(計画)D(実施)C(評価)A(改善) 2. ヘルスプロモーション・プライマリヘルスケア 3. ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ、 4. ソーシャルキャピタル	鈴木
4	地域看護活動の関連法規	地域保健法、母子保健法、健康増進法、学校保健安全法、労働安全衛生法、高齢者の医療に関する法律、感染症法、医療法、障害者福祉法他	鈴木
5	地域看護活動の場と活動の特徴（1） 行政・市町村・保健所	行政のしくみ、活動のしくみ、保健所・市町村における看護活動の具体的な展開 家庭訪問、健康教育、健康相談、健康診断 健康政策の立案と実践・評価（例：健康日本212次プラン・10年計画等）	鈴木
6	地域看護活動の場と活動の特徴（2） 学校・産業	学校・産業における看護活動の機能と実際	鈴木
7	在宅看護の概念	在宅看護の背景 在宅看護の基盤 在宅看護の役割・機能	大沼

8	在宅療養者と家族の支援	在宅看護倫理 家族への支援	大沼
9	地域療養を支える制度と在宅看護（1）	社会資源の活用、医療保険制度 障害者関連法、難病法	越納
10	地域療養を支える制度と在宅看護（2）	後期高齢者医療制度 介護保険制度	越納
11	在宅ケアを支える訪問看護ステーション（1）	在宅看護における安全と健康危機管理 訪問看護ステーションの実際 ブライトステージ 吉田香織先生	大沼 ゲスト スピーカー
12	在宅ケアを支える訪問看護ステーション（2）	訪問看護の基本 訪問看護ステーションのまとめ	大沼
13	在宅ケアを支える継続支援 入退院支援看護師の実際	入退院支援の看護実践 中津川病院 菊池麻衣子先生	越納 ゲスト スピーカー
14	地域包括ケアシステムと暮らしの中の看護	暮らしの中での健康づくり・地域づくり	大沼
15	地域・在宅看護の展 授業のまとめ	地域・在宅看護の動向と今後の発展 授業のまとめ	大沼

■ 履修条件

社会と福祉を履修していること

■ 成績評価方法

成績評価は、鈴木担当分は、授業準備、参加態度、レポート（10%）、筆記試験（20%）とする。大沼・越納担当分は、授業準備、参加態度（10%）、レポート（20%）、筆記試験（大沼30%、越納10%）により評価する。総合して60%以上で単位を与える。

*レポート作成にあたり剽窃等が認められた場合は、評価の対象としない。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

講義中にコメント等を行う。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
地域・在宅看護論 ① 地域療養を支えるケア
- ・尾崎章子編（2021）『地域・在宅看護実習ハンドブック』中央法規出版

■ 参考書・参考資料等

- ・秋山正子著（2010）『在宅ケアの不思議な力』医学書院
- ・秋山正子著（2011）『在宅ケアのつながる力』医学書院
- ・秋山正子著（2012）『在宅ケアのはぐくむ力』医学書院
- ・村上紀美子編（2014）『患者の目線』医学書院
- ・豊島泰子編著（2022）『看護師のための地域看護学』PILAR PRESS

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業1コマにつき、事前・事後学修としてそれぞれ90分程度必要とする。
- ・事前学修として、指定された範囲の教科書を読み、質問事項をまとめておくこと。
- ・事後学修として、授業時配布資料とノートを読み、内容が理解できているかどうかを確認すること。

■ 担当教員からのメッセージ

地域看護学は、私たちの健康がどのような仕組みで守られているのか、どんな場で看護活動が展開されているのかについて学びます（鈴木）

療養者を支える地域ケアのしくみと在宅における看護のかかわりの関連を考える授業です。自ら学ぶことを主眼におき、参加しましょう。リアクションペーパーは、出席票と実習記録の練習も兼ねています。（大沼）

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

鈴木：研究室 12、rsuzuki★iwate-uhms.ac.jp、各授業日 17:00 まで

大沼：研究室 15、yu-ohnuma★iwate-uhms.ac.jp、

越納：研究室 22、koshinou★iwate-uhms.ac.jp 事前にメールでご連絡ください。

（※メールの際は★を@にしてください）

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

保健師、看護師、助産師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

訪問看護ステーション管理者

病院入退院支援看護師

■ 実務経験を活かした教育内容

保健師、看護師、助産師としての実務経験を活かし、地域・在宅看護に関する専門的で実務的な講義を行います。